

特集「情報教育～理論・評価・展望～」の 編集にあたって

中 森 眞 理 雄^{†1}

一昨年、昨年に引き続き、「情報」教育に関する3回目の特集「情報教育～理論・評価・展望～」を組ませていただいた。対象は、情報教育の情報科学・工学的・教育的見地からの抽象・設計・評価、初等中等高等教育・企業教育などの情報教育における目標・方法論・理論・実践例・評価とその手法、情報教育教材、各種教育支援ツール、e-Learning、CMS、LMS、情報教育の評価手法などに関するものとし、範囲を広くして、論文を募集した。

投稿された論文は、対象は学校（初等・中等・高等）教育から企業内教育まで多岐にわたり、内容は、情報科学の観点から教育の方法を論ずるもの、教育学の観点から情報科学・情報技術の教育方法を論ずるもの、「情報」教育のカリキュラム・教材・システム環境を論ずるもの、広範囲の教育の情報化を論ずるもの、教育行政の理念を論ずるもの、個別事例や実践例を報告するもの、情報教育に関する研究動向の調査など、多彩であった。

投稿論文数は27編あり、採録された論文は5編であった。採択率は約19%である。投稿数・採録数・採択率いずれも減少してしまった。第2回特集「理論・実践・効果」で採択率が向上した背景には、第1回特集「情報教育～理念・理論・実践～」に掲載された論文が参考になって投稿論文全体の質が向上したこと、「コンピュータと教育」研究会・サマーセミナー SSS・情報科学技術フォーラム FIT などを通じて、研究会が組織的に論文の質の向上に努めてきた効果が大きかったと思われる。今回そのような組織的取り組みが少なかったことは、大きな反省点である。不採択となった論文全般にいえることとして、サーベイや評価の不十分さ、信頼できる根拠や議論の進め方の不明確さなどがあるが、口頭発表と論文誌の違いが十分に理解されていないことも大きい。しかし、不採択論文にも興味深いテーマが多かったため、完成度を高めて再度投稿されることが期待される。

採録された論文は、「プログラミング教育」、「協調学習」、「教育支援」、「情報教育」に分けて整理している。プログラミング教育では、オブジェクト指向言語における変数とデータの関係性を学習者が理解しやすくするワークベンチを提案する1編と、教員が限られた時間内に有益な学習者情報を得るための学習カルテの分析方法を論じた1編がある。協調学習では、学生が作成した問題の類似度を算出する手法を提案した1編がある。教育支援では、携帯型授業設計支援システムを用いて一斉講義式の座学を双方向性にする試みを論じた1編がある。情報教育では、情報教育に関する論文を分類し研究動向を探る1編がある。

最後に、本特集号を出版するうえでご協力いただいた編集委員、タイトなスケジュールの中で丁寧にも公平に査読をしていただいた匿名の査読者、スケジュール管理をはじめ適切な支援をしていただいた学会担当者の方々に感謝の意を表します。

「情報教育～理論・評価・展望～」特集号編集委員会

- 編集長
中森眞理雄（東京農工大学）
- 幹事
坂東宏和（イーテキスト研究所）
- 編集委員（五十音順）
大即洋子（清和大学）、角田博保（電気通信大学）、加藤直樹（東京学芸大学）、金子敬一（東京農工大学）、兼宗 進（大阪電気通信大学）、神沼靖子（本学会フェロー）、川合 慧（放送大学）、末代誠仁（東京農工大学）、高岡詠子（上智大学）、立田ルミ（獨協大学）、田村弘昭（篠田プラズマ）、中西通雄（大阪工業大学）、中野由章（千里金蘭大学）、西田知博（大阪学院大学）、樫山淳雄（東京学芸大学）、平賀瑠美（筑波技術大学）、松浦敏雄（大阪市立大学）、山之上卓（鹿児島大学）、吉野 孝（和歌山大学）、渡辺博芳（帝京大学）

^{†1} 東京農工大学

Tokyo University of Agriculture and Technology